	一般的名称	報告の概要
34	ナルトグラスチム(遺伝子組換え)	乳癌患者5510例を対象としたレトロスペクティブな研究において、G-CSF投与が非投与に比べて急性骨髄性白血病と骨髄異形成症候群の発生リスクが2倍高かった。
35	フルコナゾール	ネビラピンを基本とした治療を開始したHIV感染症患者122例を対象としたプロスペクティブ研究において、フルコナゾール非併用群では皮膚発疹が発症し、フルコナゾール併用により血漿中ネビラピンのトラフ値が1.76倍に上昇し、1例に肝炎が発症した。
36	酢酸トコフェロール	基礎疾患にうっ血性心不全を有しない心筋梗塞後患者8416例を対象とした追跡調査において、ビタミンEが左室機能不全患者の心不全発現リスクを上昇させることが示唆された。
37	ホリナートカルシウム	転移性膵癌患者33例を対象としたゲムシタビン/フルオロウラシル/ロイコボリン/シスプラチン/イリノテカン併用療法により、Grade3-4の血小板減少、白血球減少、好中球減少、発熱性好中球減少、疲労、貧血、悪心・嘔吐および血栓症がみられ、肺塞栓症によると思われる突然死が1例みられた。
38	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータで治療を受けている多発性硬化症患者105例を対象としたレトロスペクティブ研究において、46例に肝機能検査値異常が認められた。
39	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	一医療機関においてインターフェロン　ベータ製剤を投与されている女性50例を対象としたレトロスペクティブ研究において、本剤を投与されていた患者25例中5例に、他のインターフェロン　ベータ1a製剤を投与されていた患者15例中4例に、インターフェロンベータ1bを投与されていた患者10例中3例に月経不順が認められた。
40	ホリナートカルシウム	局所進行食道扁平上皮がん患者172例を対象とした化学療法(フルオロウラシル/ロイコボリン/エトポシド/シスプラチン)+放射線併用療法の有用性を検討する非盲検ランダム化臨床試験において、好中球減少性感染、食道ー胃吻合部位漏出、肺炎、左主気管支の損傷、心不全、敗血症、胃腸出血、再生不良性貧血による治療関連死14例が報告された。
41	アセトアミノフェン	慢性便秘症の発症リスクの上昇は、アセトアミノフェンの使用と関連することが示唆された。
42	アセトアミノフェン	高齢者での上部・下部消化管イベント(穿孔や出血)による入院リスクは、非選択的・非ステロイド性消炎鎮痛剤とアセトアミノフェンの併用、またはアセトアミノフェンの高用量服用と関連することが示唆された。
43	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
44	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
45	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬を短期間(6ヶ月未満)使用すると、乳癌の発症リスクが上昇することが示唆された。
46	臭化パンクロニウム	パンクロニウムを使用した手術後に残存した筋弛緩効果は、術後肺合併症のリスクファクターとなることが示唆された。
47	クロバザム	クロバザムを投与された難治性てんかん患者でCYP2C19遺伝子変異アレルを2個有する者は、副作用の発現頻度が高いことが示唆された。
48	レボホリナートカルシウム	進行固形癌患者を対象としたFOLFOX+erlotinib療法のPhase Ⅰb用量漸増試験において、ブドウ球菌性敗血症により1例が治療関連死した。
49	エストラジオール	エストロゲンとプロゲスチンの併用により、ドライアイとなるリスクが上昇することが示唆された。
50	クエン酸クロミフェン	体外受精胚移植(IVF-ET)による子宮外妊娠は、クラミジアなどによる卵管障害ではなく、排卵誘発による内分泌動態の相違や胚移植といったIVF-ET という行為そのものによって引き起こされることが示唆された。
51	ベンズブロマロン	痛風の新患患者1046名を対象としたコホート研究において、尿酸降下薬投与時の痛風発作の誘発因子として、投与前痛風発作の関節数およびBMI値が独立したリスクだった。